

巻頭言



校長の資質・能力を高める

福島県小学校長会北会津支会会长 石本 浩一
(会津若松市立謹教小学校)

学校は宣伝効果が高いため、様々なところからの要請や注文が多い。〇〇教育と称するものだけで100をはるかに超えている。また、教職員数が多くなった時代の校務分掌がベースになっているうえに、時代の要請から校内組織が拡大している。さらには、5Gの時代にあってなお、統一性を欠く書式や無駄な会合がある。勤務時間の適正化、働き方改革（校長にとっては、働き方改革）が叫ばれている中、整理・統合、縮小、簡素化、廃止を断行し、教育の質的向上を図りながら、「校長は学校に、担任は教室に」を合い言葉に、教職員が子供たちと向き合う学校づくりをめざしていかなければならない。

よく識者は、「学校の善し悪しは校長しだい。そのくらいの意気込みでないと学校のリーダーとしては失格である」と言っているが、「意気込み」だけでは校長は務まらない。問題なのは校長としての資質・能力である。

では、校長の資質・能力とは何だろう。大きくとらえれば、教職員を理解する豊かな人間性に加え、「想像力」「統率力」「決断力」「責任感」「情報収集・分析力」「実行力」「社交・折衝力」「マスコミ対応力」などもあげられている。こんなことは誰でもわかりきっていることだが、今後は「並」程度の資質・能力ではなく、「上」や「特上」のそれでないと、とても学校経営はやっていけないとさえ思う。これが現実だと思う。

それでは、これらの資質・能力を向上させていくために大切なことは何だろうか。校長は元々教諭であったことから「学習指導」や「生徒指導」については、識見と実践力に優れてる。教諭時代には、「想像力」を常に磨き、そしてフルに働かせて、授業をはじめとする教育活動を子供とともに創り上げてきたわけである。さて、校長になって、これまで培った「想像力」等を十分活用しているだろうか。学校経営において「想像力」をはじめとする求められる資質・能力の質が高ければ高いほど、判断し行動に移す際に期待どおりあるいは期待するものに近い結果を生むことができるようになる。そして、余裕をもって備えるという時間を楽しむことができるようになる。しかし現実は違っている。教諭時代に経験してきていない案件の方がはるかに多い。例えば、教育予算確保、予算執行、教育施策への理解と適正な批判、労務管理、人事、リスクマネジメント、財政当局・教委との交渉など、指導関係以外については、きわめて脆弱であると言わざるを得ない。一体誰に相談すればいいのだろう。自問自答してはいられない。校長は結果責任を求められている。一步前に進んで解決しなければならない。だからこそ校長会が存在しているのだと考える。校長室で一人で悩むことなく、「わからないことを正直にわからないと言い合える関係」「悩んでいることを素直にはき出し、大所高所から意見をいただける関係」これが構築できているのが校長会のすばらしさだ。今後さらに団結力を強め、互いの弱い部分を改善強化し、学校経営の基盤を強化していきたいものである。「校長が裸の王様」とならないように。「学校は因循姑息な手段や方法で課題を解決している」との誤解を決して招かないように。

アイディア実践

「地域の自然とつなぐ」

磐梯町立磐梯第一小学校 酒井 康雄

本校の特色の一つとして、豊かな自然に恵まれていることが挙げられます。そのため、休み時間になると、子どもたちが捕まえた生き物を虫眼鏡や双眼実体顕微鏡で観察させています。このような子どもの探究の芽を育てるためには、保護者も身近な生き物への興味・関心もってもらうことが必要です。そこで、学校だよりを活用し、以下のような内容を紹介してきました。

トンボは飛ぶとき、脚をどのようにしているのでしょうか。

ホバリングしているギンヤンマは、前脚を眼の後ろに隠すようにしています。中脚、後脚は胸の下にたたんでいます。このような写真を撮るのは子どもだけではできませんが、子どもと一緒にＩＣＴ機器の活用のきっかけになればと紹介しました。



地面にキビタキがいます。具合が悪そうですが、どうしたのでしょうか。

このキビタキの近くには巣立ち雛がありました。これは、キビタキの擬傷行動です。チドリの仲間では、よく知られています。子どものために体を張るのは人間だけのことから、自分の子育てを考える機会にしてもらいました。



アイディア実践

「みんな笑顔に」

猪苗代町立猪苗代小学校 秦 尚志

昨年度は、1学期の臨時休業、それに伴い運動会や授業参観などの中止や延期の決定、校内の消毒や換気の徹底、密を避けるための授業内容の変更などなど、新型コロナウイルス対応に追われた1年間となった。臨時休業にあたっては、担任は教材の準備等に、そして、臨時休業開けには、各教科の進度調整、時数管理に追われることになった。児童も、度重なる予定変更に振り回されることとなり、特に、いわゆる特別な支援を必要とされる児童にとっては、1ヶ月にわたる臨時休業や度重なる予定の変更について行けず、かなりストレスをためることになった。

今年度に入っても、一向に新型コロナウイルスの感染がおさまる気配はなく、行事等の変更を余儀なくされている。子ども達が落ち着いて学校生活をいかに送れるようになるかが、今年度も校長としての一番の責務ではないかと考えて、本校では、「特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫」をテーマに、現職教育に取り組むこととした。特別な支援を必要とする児童が落ち着いて授業に取り組むことができれば、他の児童も落ち着いて授業に取り組むことができるであろうと考え、全職員で取り組むことにした。幸い、学校の近くには県立猪苗代支援学校があり、また、町教育委員会には、特別支援アドバイザーの先生までいらっしゃるなど、今年度の研究を進めう上で、大変恵まれた環境が整っているといえる。そんな恵まれた環境を活用しながら、今年度の研究を進め、どの子にとっても笑顔でいられる授業（学校）づくりを進めていきたいと考えている。

各 部 活 動 の 計 画

《 行財政部 》

会津若松市立松長小学校 星 尚志

先日の「教育行財政に関する調査」では、ご多用にも関わらず速やかにご回答いただき、誠にありがとうございました。行財政部では教育諸条件の整備充実、教職員の待遇改善と福利厚生の向上、当面する重要課題の解決を柱に、北会津支会内の調査研究を行い、教育行政改善に取り組んでまいります。県行財政部の活動方針を踏まえ、密接な連携を図りながら活動を推進してまいりますので、今後とも会員の皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

◎星 尚志（松長小）・篠崎俊樹（一箕小）

○原田知幸（吾妻小）・山岸 実（鶴城小）

・佐藤俊一（日新小）・遠藤 淳（大戸小）

《 生徒指導部 》

会津若松市立神指小学校 大西 恒夫

今年度も「生徒指導上の諸問題」に関する調査へのご協力をよろしくお願ひします。調査結果につきましては、「生徒指導部だより」として皆様にお知らせし、課題の共有化を図りたいと思います

昨年度からのコロナ禍により、いじめや不登校の増加も危惧される状況です。今後も早期発見・早期対応に努め、日常的にいじめや不登校が起きにくい集団づくりなどの未然防止に組織的に取り組んでいく必要があると考えます。

本年度は、以下の 5 名の部員で活動します。よろしくお願ひいたします。

◎大西恒夫（神指小）○近野典男（磐二小）

・唐司和彦（荒館小）・秦尚志（猪苗代小）

・古川奏子（翁島小）

《 研究部 》

会津若松市立城西小学校 横山 譲治

県小学校長会北会津支会は 3 班編成で、第 9 分科会「自立と社会性」の視点 2 、第 5 分科会「健やかな体」の視点 1 、及び第 6 分科会「研究・研修」の視点 2 を担当して研究活動を進めています。

研究部のメンバーは、古川 徹[門田小]・酒井康男[磐一小]、武藤盛男[緑小]、酒井央[川南小]、佐々木 豊[長瀬小](※敬称略)です。7 月の東北連小福島大会が紙面開催という形態に変更され、県の研究部長会も中止となり、見通せない点が多くあります。このような状況下ではありますが、昨年度から取り組まれている 3 つの研究が多くの学校の実践につながるよう、研究部の活動を推進してまいります。今後とも校長先生方のご協力をよろしくお願ひいたします。

《 広報部 》

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

今年度も、会員の皆様のご協力をいただきながら、広報「北会津」を 151 号から 153 号までの 3 回発行させていただきます。皆様どうぞご協力よろしくお願ひいたします。なお、経費の節減、多忙化解消のための効率化を考え、大変失礼ではありますが、原稿依頼及び原稿提出の部分について、メールでのやりとりとさせていただきます。何卒ご理解の上、ご了承していただければ幸いです。それでは、今年度の広報「北会津」の発行をお楽しみにしてください。最後に、広報部の 6 名の部員を紹介いたします。よろしくお願ひいたします。

◎大塚進一（城南小）・樋口喜敬（湊 小）

○高久賢一（千里小）・高原 昇（東山小）

・阿部秀樹（永和小）・飯塚秀一（河学園）

教育隨想

「新しい企画」

会津若松市立一箕小学校 篠崎 俊樹

昨年度は、臨時休業、分散登校を経て、6月1日から学校が再開されました。

新型コロナウイルス感染防止のために、「三密」を避ける教育活動を余儀なくされ、児童数の多い本校は、全校児童が一堂に会することができなくなりました。春の運動会は延期、秋の学習発表会、模擬店、バザーも開催は難しい…八方塞がりでした。

その様な中で、PTA会長さんから、両方を合体させて、あいづ陸上競技場でとのお話をいただきました。場所も会長さんが取ってくださいました。名称は「ひとみフェスティバル」。初めての試みでしたが、PTA役員の皆様の献身的な協力と保護者の方々のご理解とご協力により、素晴らしいフェスティバルにしていただきました。一箕小学校の全学年が集い、子供たち一人一人が躍動する姿に感動しました。

さて、今年度も同様にということで、教育計画を立てました。最大の課題は、陸上競技場の使用が抽選であること…。しかも、申し込みは、優先団体が先。そんな中、PTA役員の方が抽選に参加し、10月9日と予備日の17日を当てていただき、みんなで大喜びしました。

様々な制限の中、「新しい生活様式」という言葉も定着してきました。新型コロナ収束まで、まだ、相当な時間がかかると思われます。今後何年続くか分かりませんが、学校がある限り、子供たちが「学校に来て楽しかった。」「また、明日も学校に行きたいな。」と思えるように、チーム一箕、力を合わせて日々の教育活動に全力を尽くしていきたいと思っています。

転入校長所感

「しっぽも一役」

会津若松市立鶴城小学校 山岸 実

下の写真は旧校舎の応接室に掲げられていた額です。長崎の原爆で被爆しながらも救護活動に身を捧げた永井隆博士が病床の中でしたためられたものです。

博士の随筆をもとにつくられた「長崎の鐘」の映画教室が昭和25年に本校で行われ、感動した児童たちが博士にお見舞いの手紙を送ったところ、返事に揮毫してくださいましたものだそうです。

博士はNHKで放送された「エール」に永田武という名前で登場しており、本校の校歌を作詞した古関裕而氏との縁を感じさせるものです。

私は本校に平成9年から7年間、お世話になりましたが、当時は応接室に入るたびに、この額を眺め、豚のしっぽと自分を重ね合わせて「自分はこの学校でどんなしっぽの役目を果たせるのだろうか」といつも自問していたのを思い出します。あれから20年近く経ちますが勤務先は変わっても常にこの言葉を胸に勤めてきました。



今、改めて「しっぽも一役」の意味を問い合わせたとき、自分の職責の重さをひしひしと感じているところです。

再び本校に勤務させていただく幸せを感じつつ、これから先生方と一緒に「いきいきと輝く自分をつくる子ども」の育成にまい進していきたいと思います。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

転入校長所感

「はじまる」

会津若松市立城北小学校 鈴木 基之

この4月より、城北小学校に勤務しております。会津若松市での勤務は、鶴城小学校ことばの教室以来、実に15年ぶりです。ことばの教室には、市内外の小学校から子どもたちが通級してきており、その子の在籍する学校を訪問することもありました。城北小学校は、そのときに数回お邪魔したことがある学校です。校長先生方、どうぞよろしくお願ひいたします。

本校は、入学式で1年生77名を迎える。5月には3名の転入生で、現在386名の児童が学習に取り組んでいます。毎日通学路の各所に、地域のボランティア隊の方々が立たれ、子どもたちの通学を見守ってくださっております。事故なく2ヶ月が過ぎたところです。県教委や市教委のご尽力と保護者のご協力により感染症への対応にも目鼻がついており、いくつかの学校行事を2学期に送ったものの、今、本校は落ち着いていると感じています。

現在、毎朝通学路を歩き、子どもたちに声をかけ、地域の方々にあいさつをしています。道幅が狭い上に交通量が多い道路もあり、交通教育専門員やボランティア隊の方々に助けられています。

子どもたちや地域の皆さんのお顔。あちらこちらで飛び交う「おはようございます。」

さあ、一日の始まりです。

きっと今日もよい日になります。



転入校長所感

偏見をもたないことは真実への近道

会津若松市立松長小学校校長 星 尚志

松長小学校に赴任し、校長室の壁に掛けられている校章（H2.10制定 版画家 玉川岩雄先生）を改めて目にしました。

玉川先生は私たち教員の大先輩で、私が以前勤めた学校でご退職されました。このような縁から研究紀要の表紙となる作品の寄稿をお願いしていました。

当時、私たちが追究していたものは、「自ら学ぶ児童の育成」という研究主題のもと、「児童中心の授業」であり、この思いを玉川先生にお伝えすると、下のような作品に制作意図を添えて届けてくださいました。その原画は3年間、1枚ずつ増えて、研修を担当した私の宝物になりました。

授業づくりの基本は子どもをフィルターにして教材を見つめること、これは誰もが知ることでしょうが、奥が深く、学校全体の授業ベクトルをそろえるために試行錯誤を繰り返したことを今でも思い出します。

現在、学校の経営者として立場は変わりましたが、子どもや教職員、校舎、保護者、さらには教育施策についても、偏見を持たずに受け止めることが真実への近道だという思いは授業と向き合っていた当時のものです。一度受け止め、多面的・多角的に考察しながら夢を追い求めています。子どもたちや教職員のよりよい成長を願いながら…。



転入校長所感

「よろしくお願ひします」

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

喜多方市から会津若松市へ15年ぶりの赴任です。住まいは猪苗代町なので、会津盆地にくだる方向が違うことから、遠く飯豊山の見え方もとても違います。見え方は違えどもその勇壮な姿に出勤時は「よし今日もがんばろう。」と思う毎日です。

喜多方市立上三宮小学校よりまいりました会津若松市立城南小学校の大塚進一でございます。前任の上三宮小は、令和2年度児童数26名の極小規模校であり、令和3年度には児童数16名までに減少が進んでしまった学校です。しかし、地域の方々の学校への熱い思いを強烈に感じるところでした。おかげさまで「地域とともににある学校」を積極的に実践させていただきました。

会津若松市立城南小学校は、令和3年度の児童数が358名の学校です。前任校と比較すると約20倍以上の児童数となりました。規模の大きな学校へ赴任することに不安もありましたが、人なつっこい子どもたち、そして優秀な先生方に出会うことができ、充実した日々を送ることができます。また、城南小学校は、「ふくしま外国語教育創世事業」の拠点校に指定され、外国語の教科担任制を導入しながら、GIGAスクール構想1人1台端末を活用した英語のスピーチングの強化・向上を核に五中学区で協力して研究推進に取り組むことになっており、現在模索中で担当と一緒に頭を悩ましているところです。

北会津地区小学校長会長様はじめ、諸校長先生方、校長会ではお世話になります。皆様方より様々ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご退職校長先生からの メッセージ

「主体性」

前会津若松市立城北小学校長 山口 浩

北会津校長会には3年間お世話になり、大変ありがとうございました。特に後半は、コロナ禍で、学校行事の中止や延期、教育内容の変更が余儀なくされる中、校長会での貴重な情報交換によって、独りよがりの判断に陥ることなく、学校経営を行うことができました。また、小教研においても県の活動は全面ストップでしたが、北会津校長会の熱意で二次研を開催させていただき、研究を継続することができました。大変感謝申し上げます。

さて、あの臨時休業の期間、どう対応すれば、どう対応していれば良かったのだろうかと振り返る日々です。どう対応することがベストなのか、判断を求められるのは最終的には校長ですが、一人一人の先生方が「見えない敵」に対して、自分の置かれた立場で『主体的』に対応できたでしょうか。指示や号令がなくても主体的に対応できる教職員の育成が求められます。

教職員の仕事は非常に多様で、目の前の子どもの状況は常に変化し続け、それに対応することが求められます。それゆえ、自分で考え判断することが極めて重要です。今この状況に対峙している教師にしか対応できないのですから、指示がなければ動けないということでは何もできません。

主体性を子供に育むのが新学習指導要領の命題ですが、まずは主体性のある教職員を育成するのが校長の重要な任務であることを退職してさらに痛感しているところで



ご退職校長先生からの メッセージ

「憧れの退職生活」

前会津若松市立日新小学校長 佐藤 裕哉

この3月、たくさんの方々に支えていただき、なんとか定年退職を迎えることができたことに、心から感謝を申し上げます。退職後は少しゆっくりとして、「晴耕雨読」の日々を、と思っていましたが、「1週間で飽きるから」というご助言をいただき、心を新たに河東公民館でお仕事をさせていただいている。

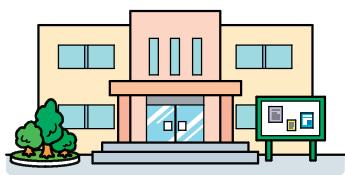
退職して変わったことは「○○先生」と呼び合うことがなくなったこと、自宅に携帯電話を忘れても取りに戻らなくなってきたことです。今の仕事を始めてまず、感じたのは、元気で前向きな方々がたくさんいらっしゃるということです。「らくらくスマホ講座」という公民館事業に、ご高齢の方々からもたくさんの申し込みがありました。地域学校協働本部事業の「学校応援隊」にも多くの方々が参加してくださっています。

このような生き生きと生きる姿を見てわたしも「晴耕雨読」はもう少し先に延ばして、今できることを見つけてがんばろうと思う今日この頃です。

今、学校はとても大変な課題に立ち向かっている最中です。どうかお体に留意されて、子どもたちの夢の実現を後押ししてください。

教職は夢のあるとても楽しい仕事でした。

大変お世話になりました。



ご退職校長先生からの メッセージ

「毎日が充実!?」

前会津若松市立大戸小学校長 二瓶 悅子

北会津校長会には2年間お世話になりました。最後の年は、新型コロナウイルスへの対応という少し前までは考えもしなかった事態になりましたが、みんなで知恵を出し合って校務を進めることができました。今年もまだまだコロナへの対応は続きますが、校長先生方には危機意識を持ちつつ、よりよい方法を目指して学校運営にあたっていただければと思います。

さて、退職してからの私は、週2日下郷町立旭田小学校の初任研修補充と、図書館支援員の青田さんと一緒に図書ボランティアに行ったり、大戸小学校の学習支援ボランティアをしたりしています。

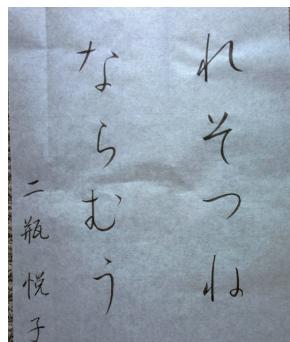
旭田小学校では2年生12名の音楽や図工、体育などを担当し、「悦子せんせーい」と呼ぶ子供たちから元気をもらいながら勤めています。

図書ボランティアでは図書の整理等だけでなく、国語の教科書にある「図書館の使い方」の授業をさせてもらって、とても楽しい時間を過ごしています。教諭時代に取った司書教諭の資格も役立てられればと思っています。

大戸小での学習支援ボランティアは、少しでも子供たちのためにできたらという思いと、経験の少ない講師の先生のために何かできたらという思いで週1回程度やっています。

また、念願だった書道も習い始めました。(→)

このように、今までとは違う立場で学校に関わったり、趣味を楽しんだりして毎日が充実!?しています。



ご退職校長先生からの メッセージ

「恩返し」

前会津若松市立東山小学校長 津田 宗人

退職から3か月が経ちました。北会津小学校長会様には2年間お世話になりました。退職の年である昨年度は年度当初から新型コロナウィルス対応に追われ、様々な難しい判断が求められた毎日でした。

コロナ禍は未曾有のことではありましたが、判断の拠り所になったのが校長会のネットワークでした。他校の状況やアドバイスを伺うことで自信をもって判断を下すことができました。校長の後ろには誰もいないと言われますが、周りにはたくさんの仲間がいて、とても心強く思いました。収束はまだまだ見えませんが、各校の校長先生方が迷い悩んだときには、ぜひとも校長会のネットワークに頼ってみることをお勧めします。

さて、私自身のことですが、現在は再任用教諭として川南小学校で教務主任をしています。退職後も仕事を与えていただけたことをありがとうございます。教務主任は23年ぶりで感覚がかなり鈍っていますが、周りの教職員に支えられながら、何とかやっています。教務主任の仕事の多さと多忙さは経験済みのはずでしたが、実際にやってみると、年寄りにはなかなかきつい仕事です。今思えば、校長として学校の細かな部分まで見ていなかつた、見えていなかつたことを痛感しています。

定年70歳時代の到来も現実味を帯びてきました。年金支給年齢の延長とともに、60歳を過ぎた後の仕事探しも大変になってきます。再任用の枠もいつまであるのか不透明です。私自身、次年度以降もこの職を続けるかどうかは分かりませんが、与えていただいた仕事はきっちりとやり遂げることが、私を育ててくださった教育現場への恩返しだと思っています。

